

平成19年度病害虫発生予報第10号

平成19年12月6日
鳥取県病害虫防除所

予報の概要 [参考]

区分	農作物名	病害虫名	発生時期	予想発生量
野菜	ラッキョウ	白色疫病	やや早い	やや多い
	イチゴ	うどんこ病 灰色かび病	やや遅い 平年並	やや少ない 平年並

気象予報（抜粋）

1か月予報（12月1日～12月30日：11月30日、広島地方気象台発表）

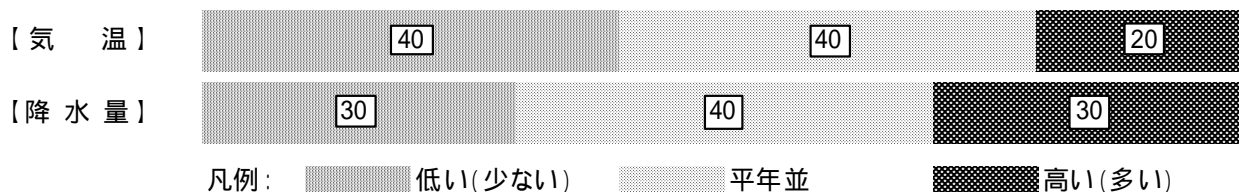
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨又は雪の日が多いでしょう。

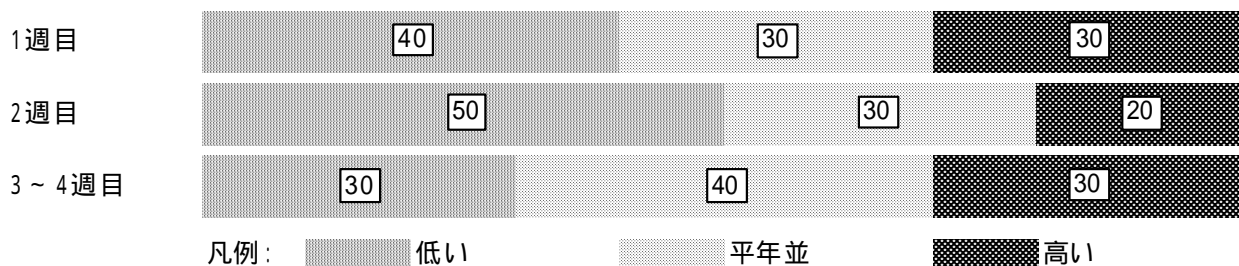
向こう1か月の気温は平年並又は低い確率ともに40%です。

週別の気温は、2週目は低い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



野菜

[ラッキョウ]

1 白色疫病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、県東部及び中部の現地ほ場で発病が認められており、平年に比べて発生時期がやや早い。

イ 本病は晩秋から初春の連続降雨や積雪により発病が多くなる。

ウ 向こう1か月の気象予報によると、今後やや多い発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は、発病前の予防散布が効果的である。12月中旬にリドミルMZ水和剤500倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液、カーゼートPZ水和剤600倍液のいずれかを散布する。

イ 1~2月の連続降雨後及び雪解け時に、リドミルMZ水和剤500倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液、ホライズンドライフロアブル1,000倍液などを散布する。

ウ 前年に発生が多かったほ場では、土壌中の病原菌密度は高いと考えられるので、ほ場の排水対策とともに、年内の薬剤防除を徹底する。

[イチゴ]

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生時期 やや遅い

発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

ア 夏~秋期が高温で推移したため、本病の発生時期がやや遅れており、11月下旬現在のほ場における発生量はやや少ない。

イ 向こう1か月の気象予報によると、今後もやや少ない発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病性品種では、発病後の防除は難しいので、予防防除に重点を置く。薬剤は、表1を参考にA群の硫黄くん煙剤(サルファグレン)、又はB群の薬剤を選択して使用する。

イ すでにほ場で発生している場合は、表1を参考にC群、D群+E群の混用、E群、F群、ジーファイン水和剤+G群の混用の各薬剤を7日間隔で散布後、A群の薬剤を処理する。灰色かび病の発生がみられる時は、H群の薬剤を散布する。

ウ 薬剤防除は、葉の裏や芽の間にも薬液がよくかかるように、丁寧に散布する。

エ なお、薬剤の使用に当たっては、同一群内の薬剤及び同一薬剤の連用は避ける。

また、A群は、浸透性を高める展着剤と混用すると薬害がでやすいので、これらの展着剤は加用しない。

表1 イチゴうどんこ病の主要防除薬剤

薬剤群	種類	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前日数
A	水和硫黄剤	サルファースル	500～1,000倍	4	-
		クムラス	500～1,000倍	-	-
	硫黄くん煙剤	サルファグレン	0.10 g/m ³	-	-
B	DBEDC剤	サンヨール	500～1,000倍	6	前日
C	ストピルリン系	アミスター20フロアブル	1,500～2,000倍	3	前日
		ストピルフロアブル	3,000～5,000倍	3	前日
D	EBI剤	ラー水和剤	4,000～8,000倍	3	前日
		ルビケンくん煙剤	40g/200m ³	3	前日
		ハイコラル水和剤	5,000倍	3	前日
		トリフミン水和剤	3,000～5,000倍	5	前日
		トリフミンジェット	50 g/400m ³		前日
		ハンチョTF顆粒水和剤	2,000倍	2	前日
E	炭酸水素カルシウム	カリグリーン	800～1,000倍	-	前日
	炭酸水素ナトリウム	ハーモイト水溶剤	800～1,000倍	-	前日
	炭酸水素ナトリウム・銅	ジーンファイン水和剤	750～1,000倍	-	前日
F	キノキサリン系	モレスタン水和剤	3,000～4,000倍	2	前日
G	脂肪酸グリセリド	サンクリスタル乳剤	300～600倍	-	前日
H	アクリルリジン系	フルビカフロアブル	2,000～3,000倍	3	前日
		フルビカくん煙剤	50g/500m ³		前日
	グアジニン系	ベルコート水和剤	4,000倍	2	前日

2 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、本病の発生量はやや少ない。

イ 向こう1か月の気象予報によると、発生が多くなるのは平年並の3～4月頃と予想され、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 枯葉や病果は早めに除去する。

イ ハウス内が20 前後で多湿になると多発しやすいので、随時、通風換気を行い、必要以上の灌水は避ける。

ウ 薬剤防除は、表2の薬剤を参考にA群、B群の薬剤を予防散布する。その後、C～E群の各薬剤を7～10日間隔で輪番散布する。

エ なお、薬剤の使用に当たっては、耐性菌の発達しやすいC群の薬剤の輪番処理及び同一薬剤の連用は避ける。

表2 イチゴ灰色かび病の主要防除薬剤

薬剤群	種類	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前日数
A	DBEDC剤	サンヨール	500倍	6	前日
B	アズラール・リジン系	フルビカフロアブル	2,000～3,000倍	3	前日
		フルビカくん煙剤	50g/500m ³		前日
C	ジカホキミット系	ロフラル水和剤	1,500倍	4	前日
		ロフラル500アケア	1,000～1,500倍		前日
		ロフラルくん煙剤	100g/300～400m ³		前日
		スミレックス水和剤	2,000倍	3	前日
		スミレックスくん煙顆粒	6g/100m ³		前日
D	アズラール系	カンタストライフロアブル	1,000～1,500倍	3	前日
E	フェニルピロール系	セビアフロアブル20	1,000～1,500倍	3	前日
	フェニルピロール系・ヒドロキシアズラール系	ジヤストミット顆粒水和剤	2,000～3,000倍	3	前日
	グアジニン系・ヒドロキシアズラール系	ダイマジン	2,000倍	2	前日

[おしらせ]

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。詳しい内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(<http://www.famic.go.jp/>)

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散には十分注意しましょう。

< 鳥取県病害虫防除所ホームページ >

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病害虫の発生予察情報やフェロモントラップの調査結果(野菜の各種害虫、果樹のシンクイムシ類)、病害虫の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

鳥取県病害虫防除所
〒680-1142 鳥取市橋本 260
TEL : 0857-53-1345、FAX : 0857-53-5647
E-mail : boujyot@titan.ocn.ne.jp

次の予報発表は、2月7日(木)の予定です。